

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第47週 (11/21-11/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		47週	46週	45週	44週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	4	5	5	5
	インフルエンザ*	28	27	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	注 意 報	千 葉 市				千 葉 県
			11/21-11/27	11/14-11/20	11/7-11/13	10/31-11/6	11/14-11/20
			47週	46週	45週	44週	46週
小 児 科	RSウイルス感染症		0	3	4	8	32
			0.00	0.17	0.22	0.44	0.24
	咽頭結膜熱		1	1	0	2	21
			0.06	0.06	0.00	0.11	0.16
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		27	34	43	33	440
			1.50	1.89	2.39	1.83	3.26
	感染性胃腸炎	↓	264	294	185	124	2,228
			14.67	16.33	10.28	6.89	16.50
	水痘		5	11	3	7	59
			0.28	0.61	0.17	0.39	0.44
	手足口病		16	19	17	26	146
基 幹 定 点			0.89	1.06	0.94	1.44	1.08
	伝染性紅斑		2	0	2	0	15
			0.11	0.00	0.11	0.00	0.11
	突発性発しん		15	11	9	10	54
			0.83	0.61	0.50	0.56	0.40
	百日咳		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
	ヘルパンギーナ		0	2	7	3	7
			0.00	0.11	0.39	0.17	0.05
	流行性耳下腺炎		7	8	8	3	51
			0.39	0.44	0.44	0.17	0.38
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	37	17	16	6	260
			1.32	0.63	0.57	0.22	1.21
眼 科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎		0	1	2	4	28
			0.00	0.20	0.40	0.80	0.82
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	1	0	0	2
			0.00	1.00	0.00	0.00	0.22
	マイコプラズマ肺炎		0	1	2	2	22
			0.00	1.00	2.00	2.00	2.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第47週は、結核2件(218)、梅毒1件(26)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第47週のコメント

<インフルエンザ> 前週より増加し、流行開始の目安とされる1.00を上回り1.32となった。2009年のパンデミックを抜かし、過去10年の同時期と比べると、ほぼ例年並みだが、立ち上がり時期は比較的早い。

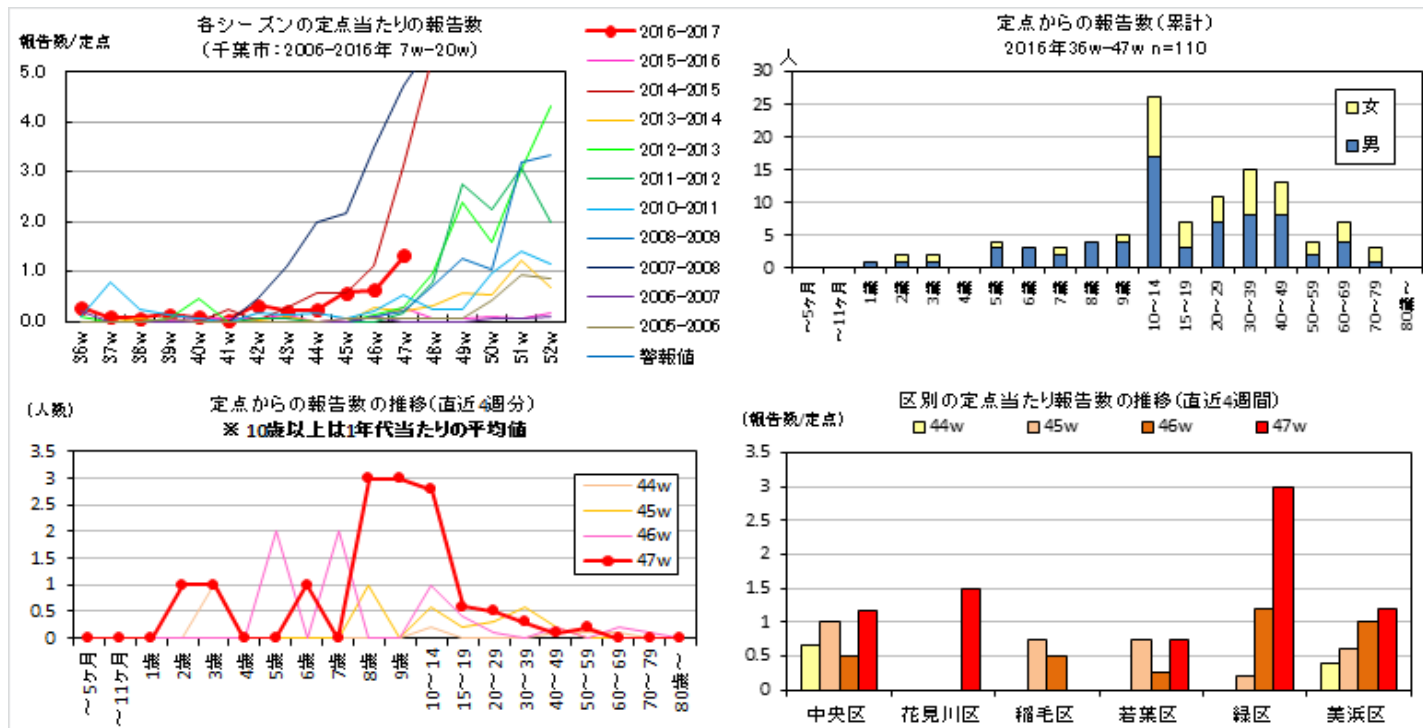
<感染性胃腸炎> 前週より減少し14.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第46週は、流行開始の目安とされる1.00を上回り、過去9年の同時期と比べると2009年のパンデミックを抜かすと最多となっています。都道府県別では、沖縄県、栃木県、福井県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第47週は、前週より増加し1.32となり、流行開始の目安とされる1.00を上回りました。過去10年の同時期と比べると、数値上ではほぼ例年並み(多数の患者が発生した2009年のパンデミックを除く)となっていますが、立ち上がりは例年より早めとなっています。区別の発生状況は、緑区(3.0/定点)で最多となっており、同区の10歳代前半で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第47週までの累積報告数(n=110)によると、性別では男性が62.7%(69名)、女性が37.3%(41名)で、一年代当たりの年齢階級別では10~14歳(4.7%:5.2名)、9歳(4.5%:5名)、5歳及び8歳(共に3.6%:4名)の順に多くっており、20歳未満は全体の51.8%、10歳未満は全体の21.8%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは省いています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第46週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮城県、三重県、広島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第47週は、前週より減少し14.67となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(24.7/定点)で流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を上回ったままで最多となっており、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。また、若葉区(22.0/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回ったままとなっています。

今シーズンである2016年第36週から第47週までの累積報告数(n=1512)によると、性別では男性が54.4%(823名)、女性が45.6%(689名)で、年齢階級別では1歳(14.9%:226名)、4歳(12.6%:191名)、2歳(10.7%:162名)の順に多くなっています。

